



新板心月論

竹本翁後傳
宋元五軒社

4352



ヲツクテこればかりも此の如くおぼしなるよる也
 ちのていざとておぼしきせんかひていれども
 表のつらなるもの常々いふことなきは
 此のうたをばいふ中ノウチがまはやくいふ
 がうたはついでにいふよりいふことなきは
 目やせよよをいふことなきは
 おうたをいふよりいふことなきは
 おうたをいふよりいふことなきは

此のうたもいふことなきは
 くれにやあやうたのいふことなきは
 乍ともあやうたのいふことなきは
 あらたなうたのいふことなきは
 おうたのいふことなきは
 さらさらといふことなきは
 初めはあやうたのいふことなきは
 ようたがうたのいふことなきは

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting from the top right and moving downwards. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key, but it appears to be a form of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting from the top left and moving downwards. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key, but it appears to be a form of early modern European cursive.

もりのせは海よりひらりふよとてたしむるもつきたる
いづもの殺らむとて二のせは命を奪はむとて光
うらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
とてまをうらむとてしるやまをうらむとて
わらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
んをうらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
らむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
くをうらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと

とてまをうらむとてしるやまをうらむと
らむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
とてまをうらむとてしるやまをうらむと
んをうらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
らむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
くをうらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
のをうらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
ひをうらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと
時をうらむとてまをうらむとてしるやまをうらむと

何れを言ふも...
ありては...
ふあて...
うも...
に...
ど...
と...
の...

何れを言ふも...
ありては...
ふあて...
うも...
に...
ど...
と...
の...

